

空襲犠牲者供養の地蔵(平安地蔵) (くうしゅうぎせいしゃ くようのじぞう(へいあんじぞう))

板橋区登録記念物(史跡) 平成8年3月8日登録

昭和20年6月10日の早朝、サイパンから飛来したB29は、南常盤台の天祖神社から南西へ向けて250kg級爆弾を集中的に落としていきました。翌日になって警察は、この時の空襲による被害は長さ約600m、幅約400mの範囲に及び、死亡者が269人、重軽傷者が155人、建物の被害が500軒以上であったと発表しています。

戦後、三回忌にあたる昭和23年6月10日、遺族や地元の関係者は、この空襲で最も多くの人亡くなった工場の敷地に、供養と恒久の平和を祈って「平安地蔵」と名付けた二体の地蔵を建立しました。そして、さらに十三回忌にあたる昭和32年6月10日には地蔵の脇に歌碑を建立しました。その歌碑の表面には地蔵建立の由来と歌が、また裏面には空襲が原因で亡くなった282人の名が刻まれています。

二体の地蔵は、戦争の悲惨さとこの地で空襲により大勢の犠牲者があったことを後世に伝える史跡として、現在でも地元の関係者によってしっかりと護られています。



〈歌碑の歌〉

平らけく 安らけく
世をは 護ります
地蔵菩薩の 誓ひうれしき

所在地：板橋区南常盤台 2-11

交通：東武東上線「ときわ台駅」徒歩5分

国際興業バス「ときわ台駅入口」徒歩3分 [光が丘駅⇄池袋駅東口(光02)]